

俳句 大津俳句会

風を呑み日を跳ね返す鯉幟

井芹眞一郎

夫の買ふカーネーションを供華として

秋山 恵子

紫蘭咲き平和なひと日昏れにけり

市原 初女

畏みて美智子妃の名の薔薇と撮り

江藤 みち

一人居の菖蒲浮かべて長湯かな

大塚喜久子

初夏の阿蘇の連峰試歩の杖

坂本 セキ

みはるかす色とりどりの麦の秋

佐賀 久子

えごの花ひしめき合いて揺れにけり

田中ひさ美

家中の鏡きらめく夏はじめ

茶円りゆい

俳諧が支えの余生風薫る

原田 順子

彩少しづつ褪せてゆく藤の房

武藤 規子

故郷へ思ひ膨らむ花蜜柑

森山美穂子

織月と一番星と月見草

渡邊佳代子

俳句 つのはな句会

謎解きのしつぱにしかと楠若葉

星永 文夫

足もとの乱れて薄暑 舞稽古

塚本 洋子

大字小字消えて一丁目の蜥蜴

酒井 豊美

大手振りしメーデー蟻の塔脆し

志賀 孝子

鉄砲百合孤独に昭和語り出す

田上 公代

花折って鳥獣戯画に迷い込む

木庭 杏子

空っぱの牛乳瓶に春満ちる

上杉 波

列島を回遊している夏の鬱

矢嶋 道子

青葉闇くぐれば水の遊びかな

水野 春子

夕立がかき消してゆく白と闇

梅木トキエ

短歌 大津短歌会

マフラーで繋がりながら如月の

雪道帰る小五と吾と

渡辺佐代子

群れ遊ぶ雀いち羽がすかんぽに

止まれば茎のしなやかに垂る

坂本 杲子

純白とむらさき深き鉄線の

絡み合いつつフェンスに揺るる

岩下 文代

百歳を祝いに来たる親族等に

謝辞述べる姉声高らかに

豊岡ミツル

寂しさを買いたるごとく花買って

雨降る街を帰りて来たり

吉永 恵子

たんぽぽを黄金のごとく尊びし

童心満つる春野歩めり

小平 善行

短歌 万年青短歌会

遠くみる野焼きの阿蘇は黒々と

こぶしの一樹万と花咲く

磯崎テル子

満開の桜トンネルどこまでも

心うきうき花日和かな

中山 春代

生かされて地震かみなり火事おやじ

卒寿迎えて幸不幸か

山内 信子

初咲きの枝垂れ桜に類よする

幾年振りか苗購いて

合志 妙子

花吹雪花見弁当にひらひらと

曾孫は他県のママに写メール

合志 桃花

野苺をかみしめながらほろほろと

歩く野道に初夏の風吹く

河北 幸一